

平成十年度 駒沢短期大学仏教科彙報

*今回は原則として平成九年度を主とする

ダルマキールティに関する近代の研究を批判的に扱い、特にプラマーナの定義について考察した。

中国仏教演習 奥野 光賢

凝然『八宗綱要』『天台宗』の項をテキストとして、天台宗の歴史と教理を演習形式で概説。

仏教思想演習 袴谷 憲昭

善導の『観経疏』『散善義』を講読演習することによって、法然や親鸞の源流ともいうべき善導の浄土思想を考察した。

仏教文学演習 石井 公成

『日本霊異記』を中心としつつ、印度・中国・新羅・日本の仏教説話などを講読。日用経典概説 角田 泰隆

前期は、仏教教理史を概説しながら経典の成立や伝播等を講義。後期は、曹洞宗において日頃読誦している経典(教典)・語録等を演習。

インド仏教史 木村 誠司

シチエルバツキー (Scherbatsky) の *Buddhist Logic* を中心に、論理学という面から、インド仏教史をながめた。

中国仏教史 奥野 光賢

中国仏教の形成過程を主として教理に力

◇平成九年度 短大仏教科開講科目

基礎仏教学 石井 公成

五蘊、無我、縁起など原始仏教の中心となる教理について考察したのち、中国や日本における仏教の変容について触れ、

道元禪師・瑩山禪師の思想の特質を考察。

坐 禅 角田 泰隆

志部 憲一

前半は只管打坐、後半は坐禅に関する両祖の撰述の提唱。平成九年度は、『普勸坐禅儀』。

宗学研究 角田 泰隆

前期は、曹洞宗の基本的事柄について概説、後期は、両祖(道元禪師・瑩山禪師)の伝記をたどりながら、その基本的な教義について講義。

禅学研究 奥野 光賢

前期は「禅」や「禅定」「禅宗」といった言葉の意味を中心として主として慧能に

いたるまでの中国禅宗史の概説。後期は

『六祖壇経』を講読しながら、近年の禅思想に対する批判的研究を紹介して、禅思想のもつ思想的意味について概説した。

仏典研究 I 木村 誠司

ツォンカパの中観思想を軸に、インド・チベットの観論者の見解を考察した。

仏典研究 II 石井 公成

『梵網経』や道蔵本『四十二章経』など、中国成立の経典を講読し、中国人の宗教意識を研究。

仏典研究 III 袴谷 憲昭

法然の『選択本願念仏集』の講読を通して、日本仏教思想史における法然の浄土思想の特質を研究した。

インド・チベット仏教演習 木村 誠司

点をおいて概説。

日本仏教史

梶谷 憲昭

Intellectual History of Buddhism in

Japanという観点から、日本の仏教思想

を史的に概観する一方で、法然と明恵

との思想的差異に注目して日本における

その両系統の思考の相違を考察した。

日本禅宗史

角田 泰隆

前期は、インド・中国・日本に及ぶ禅の

流れ、および禅思想の特徴について概説。

後期はこれを踏まえて日本の禅宗の歴史、

特に臨済宗史について講義。

奥野 光賢

仏教と文化

「大智度論」等に見られる「本生譚」の

講読を通じて、それらの物語が意味する

仏教観について考察した。

木村 誠司

外国語仏書演習

W. Y. Evans-Wentz, *The Tibetan*

*Book of the Dead*を講読した。

角田 泰隆

仏教伝道

前期は、釈尊の伝記を学びながら仏教伝

道の基本的あり方について考え、後期は、

宗門寺院における伝道の具体相、特に葬

祭儀礼について、その意義を概説。

インド仏教史

池田 道浩

仏教語解説

池田 道浩

仏教と人間

大西 龍峯

仏教演習

大西 龍峯

禅学演習

志部 憲一

中国禅宗史

須山 長治

中国古典語

須山 長治

仏教と現代

峰岸 孝哉

宗教哲学

紺野 馨

キリスト教概説

紺野 馨

書道

野村 宙弘

◇他学部他学科出講科目

〔大学院〕

修士課程・仏教学特講II

石井 公成

敦煌出土の地論宗文献をとりあげ、慧遠

など従来知られていなかった地論宗の教学や、

天台宗・華嚴宗・禅宗などとの関係を明

らかにしつつ講読。

〔仏教学部〕

日本仏教文化史

梶谷 憲昭

〔国体の本義〕(文部省、昭和十二年刊)

を基本教材としながら、仏教思想の我が

国における受容のされ方を検討した。即

ち、事実として日本にあった仏教文化が

どのようなものであったかとするのでは

なく、仏教の思想がどのように変様して

日本において仏教文化として受容される

ようになったかを考察したものが、本講

義である。

中国古典語初級

石井 公成

文法の基礎を押えつつ、「老子」「荘子」

「易」の要文と注釈を講読。

チベット仏教史

木村 誠司

サムエの宗論やツォンカパの思想を特に、

詳しく考察し、中国や日本の仏教との相

違についても論じた。

チベット語上級

「プトゥン仏教史」を講読した。

〔短期大学〕

仏教と人間(国文科前半)

石井 公成

古代の呪術的信仰が現代人のうちにも生

きていることに注意しつつ、世界の宗教

と仏教について概説。

仏教と人間(国文科後半)

梶谷 憲昭

日本史の知識をまだ失っていないはずの

新入生を念頭におきながら、特に日本と

いう場における仏教の展開を中心に、仏

教と人間のかかわりについて講義した。

その更に中心は、古代末から中世にかけ

ての全く異質な二つの思潮を究明することに置かれた。しかも、その二思潮を代表する、法然と、その法然を批判した明恵との比較が一年間のテーマであった。

仏教と人間 (英文科前半) 奥野 光賢
松本史朗著『仏教への道』を教科書として、仏教の基本的教義の概説。

仏教と人間 (英文科後半) 木村 誠司
前期は仏教の基本的教義や歴史を概説し、後期は河邑厚徳・林由香里『チベット死者の書―仏典に秘められた死と転生―』をテキストとし、仏教のあり方について考察した。

仏教と人間 (前期・放射線科) 角田 泰隆
仏教の基本的な教義について解説。便宜的に、「人間」「自己」「現在」「教育」「生死」の五つの言葉を順次取りあげ、これらと関係させながら講義。

日本仏教史(前期・国文科) 石井 公成
朝鮮仏教の影響に注意しつつ、仏教の受容から道元禪師に至る歴史を概説。

◇教員研究活動

石井 公成

〔論文〕

「無相戒の源流」(『駒澤大学禅研究所年報』第八号、一九九七・三)

「敦煌写本中の靈弁『華嚴経論』断簡―縁集説の成立をめぐる―」(鎌田茂雄博士古稀記念会編『華嚴学論集』、一九九七・十一)

「ベトナム語の字喃(chữ nôm)と梵語音写用漢字」(『駒澤短期大学研究紀要』第二六号、一九九八・三)

「金剛三昧経の成立事情」(『印度学仏教学研究』第四六卷第二号、一九九八・三)〔発表〕

「金剛三昧経の成立事情」(第四十八回日本印度学仏教学会学術大会、一九九七年六月二十一日、於大谷大学)

袴谷 憲昭

〔著書〕

『法然と明恵―日本仏教思想史序説―』(大蔵出版、一九九八・七)

〔論文〕

「禅思想と禅研究所について」(『駒澤大学禅研究所年報』第八号、一九九七・三)

「成仏と往生」(『駒澤短期大学仏教論集』第三号、一九九七・十)

「無責任体制批判」(『駒澤短期大学仏教論集』第三号、一九九七・十)

「明恵『摧邪輪』の華嚴思想」(鎌田茂雄博士古稀記念会編『華嚴学論集』、一九九七・十一)

「仏国土思想関連資料および雑記」(『駒澤短期大学研究紀要』第二六号、一九九八・三)

「悪業払拭の儀式関連経典雑考(VIII)」(『駒澤短期大学研究紀要』第二六号、一九九八・三)

木村 誠司

〔論文〕

「定義とプラマーナの定義」(『駒澤短期大学仏教論集』第三号、一九九七・十)〔書評〕

「Georges, B. J. Dreyfus 著 *Recognizing Reality*」(『駒澤短期大学仏教論集』第三号、一九九七・十)

角田 泰隆

〔論文〕

「道元禪師における身心一如説と輪廻説」
〔駒澤短期大学仏教論集〕第三号、一九九七・十

「道元禪師の思想的研究―身心一如と輪廻―」〔印度学仏教学研究〕第四六卷第一号、一九九七・十二

「宗学考」〔宗学研究〕第四〇号、一九九八・三

「批判宗学」批判〔駒澤短期大学研究紀要〕第二六号、一九九八・三

〔批判〕

「仏教と環境問題」〔駒澤短期大学仏教論集〕第三号、一九九七・十

〔発表〕

「道元禪師の思想的研究―身心一如と輪廻―」(第四十八回日本印度学仏教学会学術大会、一九九七年六月二十一日、於大谷大学)

「道元禪師と日常生活」(平成九年度日本仏教学会学術大会、一九九七年十月五日、於東洋大学)

「宗学考」(第四十三回宗学大会、一九九七年十一月十九日、於駒澤大学)

奥野 光賢

〔論文〕

「吉蔵における「決定業転」をめぐって」
〔駒澤短期大学仏教論集〕第三号、一九九七・十

「吉蔵教学と『華嚴経』をめぐって」(鎌田茂雄博士古稀記念会編『華嚴学論集』、一九九七・十二)

「吉蔵と一闍提」〔印度学仏教学研究〕第四六卷第一号、一九九七・十二

〔発表〕

「吉蔵と一闍提」(第四十八回日本印度学仏教学会学術大会、一九九七年六月二十一日、於大谷大学)

〔出張〕

平成七年度仏教史学会(一九九七年十月二十五日、於仏教大学)

◇ 諸係担当 (平成十年度)

短期大学仏教科主任 石井 公成

○ 学内諸係

全学教授会委員 石井 公成

自己点検・評価実施委員 石井 公成

体育審議会委員 木村 誠司

図書館委員 袴谷 憲昭

図書館選定委員 袴谷 憲昭

紀要編集委員 袴谷 憲昭

宗教教育運営委員 奥野 光賢

駒澤大学百周年記念奨学生選考委員

角田 泰隆

駒澤大学情報基盤整備検討委員会委員

石井 公成

総合情報システム委員会委員

石井 公成

○ 学科内諸係

自己点検・評価実施委員 専任教員全員
論集編集委員 袴谷 憲昭
会計・庶務 奥野 光賢

◇ 研究テーマ提出者 (平成十年度)

仏教科一年

岩井 隆征「瑩山禪師の研究」

菊池 宗之「一休の研究」

渡辺 信行「『歎異抄』の一考察」

森 孝基「宗門人にとっての差別問題」

川島 岳人「聖徳太子の研究」

大谷 悟祐「禅と東洋医学」

寒河江 洋「五位の研究」

村田 準一「曹洞宗と黄檗宗」

小林 芳文「地藏信仰について」

水町 尊典「道元禅師の研究」

佐藤 英記「道元禅師の生涯について」

古田 孝二「仏教と戦争責任」

石井 彩子「現代日本社会における仏教の意義」

大橋 申候「禅の諸相」

小松 勝治「曹洞宗に於ける食事作法と茶事に於ける食事作法について」

宮 徹「仏教の中国伝来」

小森 文恵「方便思想の問題点」

奥山 孝治「仏教における食習慣について」

榊屋陽一郎「現代社会における仏教および宗教の必要性」

佐藤 良行「鎌倉新仏教の思想的意義」

浅野 良道「十二卷本『正法眼蔵』「三時業」卷の一考察」

渡辺 祐宏「仏教と日本古来信仰との考察」

佐藤 允英「仏教における死後の世界について」

西垣 宏紀「曹洞宗の歴史的研究」

安野 重貴「原始仏教と現代仏教」

川村 愉爾「小乘涅槃經類における釈尊像」

田中詠一朗「拈華微笑」と「以心伝心」

——その批判的一考察——

大宮 斎士「『選択本願念仏集』の一考察」

村川菜穂子「日本仏教十三宗の研究——曹洞宗を中心として——」

中野 寛秀「仏教と諸宗教との比較的研究」

本田 桂子「現代における仏教の役割」

鈴木 祖三「現代日本人における「死」のとらえ方」

菊池 裕紀「曹洞宗の成立史的研究」

坂上 興道「修証義について」

勇 華子「地藏經の研究」

山根 孝徳「現代社会における仏教の役割」

大久保嘉由揮「釈尊の十大弟子」

菊池 光彦「仏教と社会福祉——老齡化社会における仏教の役割——」

清藤 久嗣「道元禅師の自然観」

丸島 和親「現代日本人における仏教の必要性」

安斎 朋和「曹洞宗における禅戒について」

仏教科二年

越後屋正行「仏教における「苦」について——時代と心理学的見地から——」

櫻庭 恒「函館高龍寺十八世大光海雲大和尚の蝦夷各地の末寺開教とその功績」

須賀 晶俊「『選択本願念仏集』に引用された『観経疏』について」

布川 浩久「般若心經の研究」

門脇 正宏「瑩山禅師の研究——その人間像と曹洞宗教団史における位置——」

坂野 英範「道元禅の特徴について」

池田 秀真「道安の伝記と思想」

尖 廣仲「曹洞宗の僧侶分限制度に関する考察」

渡辺 孝顕「仏教と差別思想について」

白石 幸子「戦国女性の法名と宗教の関連性」

村上 行一「日本人の宗教観について」

前原 昭彦「北魏太武帝の廃仏について」

木崎 郁夫「道元禅の現代的意義——未来への可能性——」

小池 昌慈「現代における仏教の必要性」

越賀 修司「現代人の仏教について」

木村 忠行「道元禅師の研究」

岡本 勇樹「道元の十二卷本『正法眼蔵』について」

松樹 泰弘「釈尊伝の研究」

高橋 浩紀「『妙法蓮華経』「観世音菩薩普門品」偈について」

清水 規人「僧侶の食事作法について」

鈴木 宏明「アジア諸国の無常観——その形式と変化——」

辻 貴道「日常仏教語の用法とその語源について」

森山 貴寛「鈴木正三の研究——仁王禪の生まれた背景とその特徴——」

市川 真大「曹洞宗における食事作法」
鷲峰 正也「日本仏教史における曹洞宗の位置」

渡辺 将則「道元の思想について」
曾根 達也「曹洞宗の諸行持とその法式について」

加藤智恵美「医療現場での仏教の影響」
関根 隆法「曹洞宗における法階と僧階について」

小池 尚康「輪廻思想の形式」
田原 慶隆「釈尊の出家をめぐる諸説」

金子 光則「曹洞宗における教師資格制度の批判的研究」

伊藤 宗孝「『般若心経』の思想構造とその実践」

田村 亮太「日本人の宗教観」
山田マサ子「道元禪師と大愚良寛」

◇平成十年度短大仏教科在学生

(平成十年六月一日現在)

仏教科一年

岩井 隆征	菊池 宗之
渡邊 信行	森 孝基
川島 岳人	中村 光紀
大谷 悟祐	阿部 竜平
寒河江 洋	村田 準一
小林 芳文	水町 尊典
佐藤 英記	古田 孝二
寺本 昭宏	石井 彩子
大橋 申候	野口 博明
小松 勝治	中堀 俊明
宇田 正樹	宮下 智行
宮 徹	小森 文恵
石崎 憲昭	奥山 孝治
榊屋陽一郎	小野 大龍
佐藤 良行	浅野 良道
橋本 純司	渡辺 祐宏
角田 賢一	佐藤 允英
西垣 宏紀	安野 重貴
河村 康仁	川村 怜爾
田中詠一朗	鈴木 浩吏
石田 顕周	大宮 斎士

仏教科二年

石田 靖大	村市菜穂子
中野 寛秀	本田 桂子
海野 朋孝	鈴木 祖三
菊池 裕紀	坂上 興道
勇 華子	山根 孝徳
大久保嘉由揮	星野 正親
菊池 光彦	清藤 久嗣
丸島 和親	安斎 朋和
三野 修史	新井 啓由
畠山 拓磨	
山岸 一仁	越後屋正行
櫻庭 恒	宮田 任宏
須賀 晶俊	布川 浩久
門脇 正宏	坂野 英範
池田 秀真	鈴木 貴清
本田 和也	尖 廣伸
渡邊 孝顕	白石 幸子
三上 陽平	村上 行一
前原 昭彦	木崎 郁夫
松野 利行	小池 昌慈
越賀 修司	庄司 行正
木村 忠行	岡本 勇樹
松樹 泰弘	鈴木 信亮

角山	祥浩	高橋	浩紀
清水	規人	中井	啓香
三浦	亮	鈴木	宏明
辻	貴道	竹内	信吾
森山	貴寛	三輪	宗俊
市川	真大	鷲峰	正也
渡邊	将則	小寺	健一
津戸	俊一	曾根	達也
加藤	智恵美	関根	隆法
小池	尚康	田村	好清
田原	慶隆	金子	光則
伊藤	宗孝	渡邊	正規
田村	亮太	山田	マサ子
近藤	弘衣	宮本	一暁
松野	泰弘	上野	文朋
西川	擁	小林	一成
伊藤	太祐	入野	田宗孝
金子	宗憲	小椋	周
小宮	良介	西川	英範
富田	泰俊	福田	広一
岡田	敬章		